

Table 2: 新型コロナウイルス感染症パンデミック時のがん患者に対する一般的な留意事項

コロナウイルスとは何ですか？ COVID-19 とは何ですか？

コロナウイルスとは、風邪を引き起こすウイルスの一群です。時には、重症急性呼吸器症候群（SARS）や中東呼吸器症候群（MERS）などより重篤な呼吸器疾患を引き起こす可能性があります。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2019 年 12 月に中国で最初に報告された、SevereAcuteRespiratorySyndromeCoronavirus 2(SARS-CoV-2)という新しいベータコロナウイルスが感染することによって発症する疾患です。この新型コロナウイルスは非常に感染力の高い RNA ウイルスで、インフルエンザウイルスよりも高い致死率を示します。世界保健機関(WHO)の事務局長は 2020 年 3 月 11 日に新型コロナウイルス感染症を世界的なパンデミックと宣言しました。

パンデミックとは何ですか？

パンデミックとは、いくつかの国や大陸に広がった感染症で、多くの人に影響を及ぼします。この指導要綱を執筆している時点の 2020 年 5 月 3 日現在、新型コロナウイルス感染症は世界の 209 の国や地域に広がり、感染者は 1,563,000 人を超え、死者は 91,830 人を超えています。アメリカ、イタリア、イギリス、スペイン、フランスがこの感染症による死亡者数が多い国として報告されています。

新型コロナウイルス感染症にかかった場合、重症化する可能性がありますか？

一般に、新型コロナウイルス感染症は普通の風邪やインフルエンザと同様の方法で広がり、感染者の大多数は無症状あるいは軽度から中等度の症状を呈する程度です。

軽症の場合は通常、欧米では自宅安静の上、風邪やインフルエンザの場合と同様に症状緩和に努めます。

本邦では、新型コロナウイルス感染症は「指定感染症」に指定されており、全ての感染者は入院することが原則となっておりますが、国内の新型コロナウイルス感染症対応病床数よりも感染者数が多いため、無症状者や軽症者の全てが入院できていないのが現状で、入院できない場合は自宅療養するか、厚生労働省や自治体が準備したホテルなどの宿泊施設で療養するかになります。

時に重篤なウイルス性肺炎や重度の急性呼吸窮迫を引き起こすことがあり、致命的となる可能性があります。

重症呼吸器感染症のリスクとなるのは誰ですか？ がん患者として私はより高い危険にさら

されていますか？

重症呼吸器感染症を発症するのは、主に高齢者、免疫力が低下している人、重度の併存症（がん、糖尿病、肺および心臓病、腎不全、自己免疫疾患、臓器移植後、免疫抑制剤投与）がある患者、または妊娠中の患者にみられます。

これらの理由により、がん患者の場合は、一般に推奨されている感染予防策を厳重に行うべきです。

確固たる結論を導くには至りませんが、実際にかん患者は新型コロナウイルス感染のリスクが高く、集中治療室に入室するリスク、死亡するリスクが高いことを強調する報告が中国から出ています。

これはおそらく、がん患者が、がん自体、術後合併症、がん治療（化学療法、ステロイド、放射線、骨髄移植）、全身状態低下、低栄養や悪液質により免疫力が低下しているという事実によって説明できます。

しかし、がん患者の免疫抑制のレベルはさまざまであり、患者さんの健康状態、受けた治療の種類、最後の治療からの経過時間、血液悪性腫瘍の有無、骨髄移植の有無、年齢や併存症によって異なります。

したがって、がん治療を受けている場合、または過去に治療を受けたことがある場合は、医師または病院へ連絡して新型コロナウイルス感染症の総合的なリスクについて尋ねてみてください。

新型コロナウイルスはどのように感染しますか？

新型コロナウイルスは、主に飛沫を介して感染するウイルスで、感染者が話をしたり、咳をしたり、くしゃみをしたりすると、人から人へと伝播します。ウイルスは感染者の気道からの飛沫を介して広がり、患者に接している人（2メートル以内）の目、鼻、口に直接到達します。

あるいは、飛沫が何かの表面に付着し、それを触れた手で目、鼻、口を触ったり、ハグや握手をした相手が目、鼻、口を触ったりすることで感染します。

どのような症状が出ますか？

最も一般的な症状は、曝露後 2～14 日（平均 4 日）に現れ、発熱、咳、鼻水、喉の痛み、疲労感、体の痛み、下痢などです。また、突然発症する嗅覚や味覚の喪失（上気道症状がなくても）も報告されていますが、一般的ではありません。

高熱（38℃度以上）、呼吸困難、息切れ、胸痛、ぼんやりしている、顔色が悪い、唇が紫色になっている、などの症状がある場合は、直ちに医師の診察を受けて下さい。



The Author and the main coordinator:

Dr. Davide Mauri, Assistant Professor of Oncology, University Hospital of Ioannina, Greece

--

Table 3. どうすれば自分を守ることができますか？ 新型コロナウイルス感染を回避するために、がん患者として行うべき手順や特別な対策はありますか？

どうすれば自分を守ることができますか？

政府や厚生労働省の推奨事項に従ってください。

一次予防:新型コロナウイルス感染症そのものに対する治療法がない中で感染を防ぐ最善の方法は、新型コロナウイルスにさらされないようにすることです。

一次予防は、いくつかの衛生対策および予防行動を徹底することで達成できます。

この指導要綱を執筆している時点で、新型コロナウイルス感染症の患者数は急速に増加しています。この指導要綱は限定的ではありますが、感染の拡がりが劇的に制圧され、あなたが住む地域の状況が好転するまでは本症に対する危機意識を緩めないことを推奨します。

個人および環境衛生の方法

衛生対策の重要性は、どの腫瘍学会においても認識されています。

推奨事項は次のとおりです

一人一人の衛生

- 頻回に、石けんを使い、少なくとも 20 秒間手を洗います
- 流水と石けんで手を洗うまでは 70%以上のアルコールを含む消毒剤を使用します（可能なら手指消毒剤を携帯します）。
- 洗っていない手で目、鼻、口には触れないで下さい。
- 本邦ではマスク着用が推奨されています。鼻からあごまでを覆い、隙間ができないようにつけましょう。
- マスクをつけていないときに咳やくしゃみをするときは、鼻と口をティッシュなどで覆ってください。使ったティッシュはすぐに破棄しましょう。覆うものがないときは、肘を口元に持っていき、衣服の袖で口・鼻を覆います
- 抗がん剤による治療中は、口腔は主要な感染源となります。通常の歯磨きのほかに、抗菌うがい薬によるすすぎを忘れないで下さい。

The Author and the main coordinator:

Dr. Davide Mauri, Assistant Professor of Oncology, University Hospital of Ioannina, Greece

身の回りの衛生

- 家庭や職場では家具や物の表面を定期的に清掃除菌しましょう。家庭用クリーナーシートや除菌スプレーでウイルスを除去することができます。
- 不特定多数の人が触れるところ：ドアの取っ手、電話機、キーボード、椅子、テーブル、照明のスイッチなどを清潔にしておくようにしましょう（これらの表面に付着したコロナウイルスは数時間から数日生存すると WHO より報告されています）。
- 電車・バス・タクシーなどの輸送車両、商店、病院ではなるべくものに触らないようにしましょう。鍵、ドアの取っ手、手すり、つり革、現金、IC 端末、タッチパネルなどにもウイルスが付着している可能性があります。
- スーパーで購入した野菜や果物は収納する前に洗うようにしましょう。

行動変容:

パンデミックが深刻化する中、がん患者は新型コロナウイルス感染のリスクが高いことから、新型コロナウイルス感染症制御の第一段階は、感染の抑止と環境の規制を強固にすることが重要です。すなわち、「自宅で過ごす」と「公共の場に集まらない」という方針を徹底することが強く推奨されます。

自宅で過ごしましょう！ そして家の中でも複数で集まらないようにしましょう
体調がよくても、家の中で他の人とは出来るだけ距離を置いて下さい。

現在化学療法や放射線療法などのがん治療を受けている患者さん、最近免疫抑制剤やステロイド治療を受けた患者さん、高齢者、骨髄移植を受けた患者さんは免疫抑制状態にあるので、特に「自宅で過ごす」および「公共の場に集まらない」という方針を遵守する必要があります。

不要不急な外出を控えて下さい。

生活必需品や食料の買い出し、薬の受け取り、運動などのためであっても外出は控えるべきです。スーパーやネットショッピングの宅配サービスを利用したり、友人、家族、近所の方々に買い物や薬の受け取りを代行してもらうなどして下さい。品物は直接受け取らず、玄関先

に置いてもらうようにしましょう。

がん治療を終えて仕事に復帰した場合、自宅で仕事ができるかどうか検討して下さい。直接診察を受けずに電話診察やメールを介した診察が可能ならそれを利用して下さい。薬の処方が必要な場合、在宅で処方を受けられることもあります。

自宅へ友人を招待すること、招待を受けて友人宅へ行くこと、家の中での家族以外の人との集まりを避けて下さい。(コロナウイルスに感染していても無症状の人は多くいるので気を付けて下さい!) また、子供は外部環境からの感染源であるかもしれないので、子守も避けて下さい。

どうしても外出が必要な場合、人混みを避け、また公共の交通機関の利用を避けて下さい。スーパーで食料品を買うときは、むき出しのものではなくパック詰めされたものを選んで下さい。

握手やハグなどの直接の接触は避け、人とは約 2m のソーシャルディスタンス (社会的距離) を保つようにしましょう。他人と共同生活をしている場合、食品や台所用品の共用は避けましょう。

頻回に屋内を換気し、新鮮な空気の中で生活するようにしましょう。

呼吸器感染症の症状がある人との接触は特に避けて下さい。また、症状の有無にかかわらず、海外渡航者との接触を避けて下さい。

がんサバイバーとがん治療が終了した患者さん

がんサバイバーの方やがん治療が終了して長期間経過した患者さんは、必ずしも上述のような厳格な措置を遵守するはありません。感染のリスクや必要な予防策について、主治医に尋ねて下さい。

ただし、このようなパンデミックの際は、居住する国や自治体からの連絡事項にも注意して下さい。

パンデミックの間は、たとえ許可されていたとしても、必須ではない海外旅行や海上クルーズは避けて下さい。これにより新型コロナウイルス感染症の発生を抑制し、感染のリスクを軽減できます。

マスクの使用

本邦では感染拡大防止のためのマスク着用が以前より推奨されている一方で、欧米ではマスク着用は推奨されておりました。しかし最近になって米国疾病管理予防センターと欧州疾病予防管理センターの両者が、無症状であっても、混雑した場所では常に、マスクを着用して口を覆うことを推奨しました。マスク着用は、自覚症状がなく感染していることを知らないウイルス保有者からの感染伝播のリスクを軽減するのに役立ちます。

がん患者さんについても同様で、症状がなくても人混みの中ではマスクを着用して口を覆うようにして下さい。

マスク着用は、補助的な手段としてのみ考慮されるべきであり、上記で説明した、確立した予防手段の代わりとして考慮されるべきではありません。

マスクを誤って使用すると感染のリスクが高まる可能性があるという警告が出ています。マスク装着部位不良、手が顔に何度も触れることなどがその理由として考えられています。したがって、皆さんは、マスクの正しい使用方法、その装着および取り外し方法について学ぶ必要があります。マスクの外側には直接手を触れないようにし、使用後は破棄して再使用しないようにして下さい。

マスクの使用は感染からあなたを完全に守るわけではないことに留意して下さい。

Table 4: 家族の誰かに症状がある場合はどうしますか？ ワクチンや治療法はありますか？ 新型コロナウイルスに対して感染予防効果がある食品やサプリメントはありますか？

家族の誰かに症状がある場合はどうしますか？家族の誰かに感染が疑われる場合はどうしますか？

以下の人との接触を避けて下さい

- 感染確定者。症状があっても無くても、ウイルスが陰性になるまでは接触しないで下さい。
- 感染者との接触があった人。14 日間の隔離期間を設けるか、ウイルス陰性が確認されるまで接触しないで下さい。
- 有症状だが検査が受けられない人。14 日間の隔離期間を設け、症状がなくなことを確認して下さい。

感染が疑われる家族とは、できる限り部屋を分けましょう。感染が疑われる家族の部屋は、窓のある換気ができる部屋にします。

台所やリビングなどの共有スペースでは、できるだけ一緒に過ごさないようにしましょう。共有スペースは十分に換気をしましょう。

2メートル（3歩）程度の距離を保ち、可能であれば寝室も別にしましょう。

使用するタオルは別にしましょう。

可能であれば、トイレや浴室も別にしましょう。共有する必要がある場合は、トイレは使用後に触れた部分を拭いて下さい。症状がある家族は最後に入浴して下さい。

全員が定期的に手を洗い、手で顔を触らないようにし、手が触れた物の表面はまめに掃除をしましょう。

食事は別々にとり、食器の共用は避けます。使用後の食器は食器用洗剤でよく洗います。

汚れた洗濯物を振らないで下さい。空気中にウイルスが広がる可能性があります。洗濯機では他の人の衣類も一緒に洗って大丈夫です。

14 日間自己隔離することが感染拡大防止に重要であることを該当者に説明して下さい。

状況によっては、家の中で感染が疑われる家族と距離を保つことがとても難しいことがあります。できることをしましょう。この対策を実施することで、お互いに支えあうことが可能であると感じることが大切です。

自分に症状がある場合はどうしますか？

高熱（38 度以上）、息切れ、胸痛、ぼんやりしている、顔色が悪い、唇が紫色になっている、などの症状がある場合は、直ちに医師の診察を受けて下さい。主治医またはがん治療を受けている病院に連絡して下さい。

あなたが現在がん治療（化学療法/放射線療法/免疫療法）を受けていて、発熱がある場合は、他の症状に関係なく、すぐに主治医または病院に連絡して下さい。対応が必要な治療関連副作用のため、入院する必要があるかもしれません。新型コロナウイルス感染症が疑われる場合は、PCR 検査が行われます。

新型コロナウイルス感染症の人と接触したことがある、あるいは新型コロナウイルス感染症の疑い症状がある場合はどうしますか？

新型コロナウイルス感染症のほとんどの人は無症状か、軽い風邪の症状を示します。軽度の発熱、鼻水、乾いた咳、またはその他の軽い症状が出た場合は、医師に連絡し、自宅療養して下さい。救急対応の対象となるのは、原則として重篤な症状がある患者さんに限ります。

症状が出たときに行う簡単な対策: 咳やくしゃみをするときは、鼻と口をティッシュで覆って下さい。使ったティッシュは、すぐに破棄して下さい。ティッシュがない場合、鼻と口を肘で覆って下さい。

熱が出たときは解熱薬を服用して下さい。

新型コロナウイルスに感染した場合、または感染の疑いがある場合は、完全に回復するまで厳重に隔離し、社会生活から離脱する必要があります。これは、感染伝播の収束に最も効果的な方法です。

自立生活が可能で重大な併存疾患がない場合は、可能であれば、家族と別居して下さい。これが不可能な場合、できるだけ濃厚接触を避け、台所、リビング、トイレ、浴室などの共有を避けて下さい。共有するときは、安全な距離を保って下さい。

新型コロナウイルス感染症に対して有効なワクチンや薬はありますか？

新型コロナウイルス感染症に対するワクチンはありません。2020 年 3 月以降、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの臨床試験が行われています。しかし、ワクチンが接種可能になるまでに最大 12 か月かかると予想されています。

ワクチンが開発されるまでは、上記の行動制限が感染伝播対策の主力となります。

無症状や軽症の新型コロナウイルス感染症に有効な薬剤はまだありません。風邪と同様に治療を行います。

中等症以上の患者に対する状況は日々変化しています。中等症・重症新型コロナウイルス感染症患者に対していくつかの薬剤が臨床試験として投与されています。欧米ではマラリア治療薬のクロロキンが試験投与され、有効性を示す報告が出ています。本邦では抗インフルエ

ンザ薬のファビピラビル（アビガン）が試験投与され、有効性を示す報告が出ています。いずれにしてもランダム化比較試験で有効性が示されている医薬品は現段階ではなく、今後さらなる検証が必要です。

新型コロナウイルス感染を防ぐ特定の薬はありますか？

この指導要綱を執筆している時点では、新型コロナウイルス感染を防ぐために推奨される特定の薬剤はありません。

新型コロナウイルス感染に対して効果が示された食事療法やサプリメント、または補完代替医療の薬物はありますか？

インターネット上にいくつかの記事がでていますが、食事療法、補完代替医療、またはサプリメントが免疫システムを強化することによって新型コロナウイルス感染を防ぐという科学的根拠はありません。

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/019773/>

Table 5: 健康を維持し、自宅での生活を楽しみましょう。

新型コロナウイルスによる不安やストレス解消のアドバイス。

健康を維持する

健康的な生活は、さまざまな病気（感染症、心臓病、糖尿病、がんなど）のリスクを減らすことができます。

できるだけ健康を保ちましょう！

- 新鮮な空気を吸いましょう！
 - 頻回に室内の換気を行い、新鮮な空気の中で過ごしましょう。
 - 天気がよければ庭で過ごすことも可能です。
- 定期的に軽い運動をしましょう。
- 自宅での時間を上手に使いましょう。
 - 趣味に時間を使ってみてはいかがでしょうか。
 - 家族と一緒に過ごす時間を楽しんで下さい。
 - 可能なら自宅勤務を検討して下さい。
- 電話やビデオ通話などで友人や家族との交流を保って下さい。
- 常用薬を十分に確保して下さい。
- 定期的に休息を取って下さい。しっかり睡眠を取って下さい。
- 食生活にも気をつけて下さい。野菜や果物を十分にとり、また、水分補給にも気を配って下さい。
- お酒やタバコは出来るだけ控えましょう。
- 犬や猫などのペットが新型コロナウイルスに感染するという確証はないので、いままで通りにペットと楽しく触れ合いましょう。
- 音楽を聴いたり、歌ったり、好きなこと、楽しいことをしてストレスを解消しましょう。
- 新型コロナウイルスについて、興味深い情報、不確定情報などがインターネットやテレビなど様々なメディアで取り上げられています。多方面に新しい情報を求め過ぎてこうした情報にふりまわされないようにすることがストレスの解消のためには大切です。

新型コロナウイルスによる不安やストレス

新型コロナウイルス感染の拡大による健康や経済への不安、活動の自粛などに伴って、心身に不調をきたすことが懸念されています。家にこもってばかりいると「不安」「恐怖」「悲しみ」などの陰性感情が多くなり、この状態が持続されると我々の免疫力は低下していきます。ウイルスへの免疫力（抵抗力）をつける生活をしましょう。

外出しなくても、十分に睡眠を取って、普段と同じ規則正しい生活リズムを保ちましょう。全栄養素のバランスのとれた食材を摂って食事を家族皆で作し、ゆっくり楽しんで味わって下さい。

新型コロナウイルスによる不安やストレスなどの心の問題に対処するための詳細な情報については、以下を参照して下さい。

<https://www.counselor.or.jp/covid19/tabid/505/Default.aspx>

https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1168.html

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/COVID19_specialpage_public

<https://interagencystandingcommittee.org/system/files/2020-03/IASC%20Interim%20Briefing%20Note%20on%20COVID-19%20Outbreak%20Readiness%20and%20Response%20Operations%20-%20MHPSS%20%28Japanese%29.pdf>

Table 6. 医師と治療チームを信頼する

医師と治療チームを信頼する

治療チームの主要な目標は、あなたの安全を保ち、質の高い医療を保証することです。

感染拡大の状況下では、医師や病院はがん患者の受診頻度を少なくするための積極的な手段を講じることがあります。

これは以下のに基づいております。

1. 中国湖北省武漢大学中南病院からの報告では、新型コロナウイルス感染症の発生率のがん患者で特に高かったことが判明しました。また、がんの予後も悪化し、新型コロナウイルス感染による早期死亡者が多かったことも判明しました。
2. 新型コロナウイルス感染症に対応するスタッフが不足し、がん治療スタッフが新型コロナウイルス感染症対応に配置転換されることがあります。また、がん治療スタッフが検疫のために自己隔離することがあります。

がん患者の皆さんにおかれましては、主治医を信頼し、病院の指導に従って下さい。

新型コロナウイルス感染によるリスクはがん治療にまさる場合が多く、主治医は、予定されていたがん治療を、感染のリスクが低下するまでの数週間延期することを提案する場合があります。

新型コロナウイルス感染症患者に接触した場合、潜伏期間 (14日間)が経過するまで、がん化学療法を延期する必要があります。新型コロナウイルス感染が確認された場合は、感染が落ち着くまでがん治療は中止または延期となります。

がん治療を継続するメリット/デメリット、延期するメリット/デメリットは、疾患やそれぞれの患者さんの状態によって異なりますので、主治医と相談して下さい。

パンデミックの状況下では以下のことが推奨されます。

- がん治療を伴わない、経過観察目的などの診察は延期する。
- 高齢者や併存疾患がある患者に対する待機手術は可能な限り延期する。
- 急を要する手術や進行の速い悪性腫瘍に対する手術を優先する。
- 再発予防目的の補助化学療法は、延期または中止する。
- ビスホスホネート製剤による骨支持療法、多血症やヘモクロマトーシスに対する瀉血治療は延期する。
- 「命を救う」ための化学療法を継続する。

新型コロナウイルス感染症の発生は、がん治療センターの運営に影響を与える可能性があります

新型コロナウイルス感染症の発生は医療従事者に影響を及ぼし、がん治療センターの運営に影響を及ぼします。患者さんの感染への暴露を最小限にするために、普段は行わない安全管理対策を行う必要性が生じ、配置転換される医療従事者もいます。予定されていた診察や治療が延期されたり中止されたりすることがあります。

まれに、新型コロナウイルス感染症対応の需要増加のため、腫瘍科病棟が急性期病棟として機能しなければならない場合があります。そのような状況の中で、もしあなたが根治的ながん治療を受けている場合は、他の医療機関に移って治療を継続することを求められるかも知れません。あなたが通院する病院が、患者さんや職員の安全を守るために通常とは異なる方針を採用し、あなたの治療にも影響が及ぶ可能性があることを心に留めておいて下さい。

経口抗がん剤

経口抗がん剤を服用している患者さんは、電話などで遠隔診察を受け、病院を受診せずに次の抗がん剤の処方を受けられる可能性があります。

放射線治療

新型コロナウイルス感染の拡大により、近い将来、放射線治療に携わる職員が感染し、治療機器そのものがウイルスに汚染され、治療が立ち行かなくなる可能性があります。このような場合は疾患や病状、治療目的に応じ個々に判断する必要があります。

- 頭頸部腫瘍、食道癌、肺癌、子宮頸癌など根治的な放射線治療では多くの場合、放射線療法の延期は推奨されません。
- 緩和的な放射線治療では代替方法なども含め必要性を検討した上で適応を考慮する必要があります。
- 一回線量を増加した治療回数の少ない放射線治療(寡分割照射法)に代替することが適切かどうか、すべての放射線治療でよく検討し、可能な場合は積極的に寡分割照射法の採用を考慮して下さい。
- 前立腺癌に対するホルモン療法などの待機治療が可能であれば、放射線治療の延期を検討できます。
- 乳癌の術後照射では再発リスクに応じて主治医との十分な相談の上で延期を検討して下さい。
- 新型コロナウイルス感染、あるいは感染を疑う患者さんの場合、感染の治療が最優先されます。医師は、対象疾患、治療目的、中断期間等を考慮し、中断による影響が大

The Author and the main coordinator:

Dr. Davide Mauri, Assistant Professor of Oncology, University Hospital of Ioannina, Greece

きいと考えられる場合は、院内の感染症制御チームとも相談の上で、十分かつ適切な感染予防対策を講じることを前提に慎重に放射線治療の実施に取り組みます。

- 化学療法後の患者さん、化学放射線療法を受ける患者さん、骨髄移植を受ける患者さん、および多発性骨髄腫やリンパ腫などの血液腫瘍の患者さんは、放射線療法だけを受ける患者さんよりも感染リスクが特に高くなります。

血液悪性腫瘍

治療の段階を問わず、白血病、リンパ腫、骨髄腫といった血液または骨髄のがんに罹患している患者さんは高い免疫抑制状態にあり、特に感染しやすいグループに含まれます。

自分を守るために、厳格な衛生対策を行うことや自己隔離が推奨されます。通院の頻度を減らすために医師の判断で定期的な経過観察を延期したり、あるいは電話などによる遠隔診療が行われるかもしれません。自己判断で治療を中止したり、延期したりしないで下さい。

がん検診

新型コロナウイルス感染流行期は、予定されているがん検診は延期しましょう。

がんによるものと思われる症状がある場合は、担当医に連絡して下さい。電話などによる遠隔診療で相談ができるかもしれません。医師は症状によって来院の必要性を判断します。

医療チームとのコミュニケーション

がんやがん治療への心配に加え、新型コロナウイルス感染の拡大によって非常事態宣言が出された中で不安を抱えている方が多いと思います。がんの治療に関しては、自己判断をしないで医療スタッフと相談することが大切です。わからないことや心配なことがあるときは、病院へ連絡し、対応方法を相談して下さい。

正しい情報を適切な量で

新型コロナウイルスについて、興味深い情報、不確定情報などがインターネットやテレビなど様々なメディアで取り上げられています。多方面に新しい情報を求め過ぎてこうした情報にふりまわされないように気を付けて下さい。

がん患者向けの新型コロナウイルス感染症に関する安全な情報は、ご自身が通院する医療機関、公式の腫瘍学会、および政府などから発信される情報を参照して下さい。

Table 7: がん治療センターでは

新型コロナウイルス感染症の病院内伝播を防ぐためご協力をお願いします

以下に該当する方は、来院前に、必ず病院または担当医へお知らせ下さい。

- (1) 発熱（37.5℃以上）、呼吸器症状（咳・呼吸困難等）がある
- (2) 2週間以内に以下のいずれかに該当する場合
 - 新型コロナウイルス感染症患者、またはその疑いがある患者との接触
 - 海外渡航歴がある
 - 海外渡航歴があり、発熱や呼吸器症状がある人との接触

医療機関へ通院される方へ

来院される方は、手洗い・手指消毒、および症状の有無に関わらずマスクの着用をお願いします。付き添いの方もマスクを着用いただき、院内への立ち入りは必要最小限の人数でお願いします。マスクをお持ちでない場合、咳、くしゃみの際には、ハンカチで口を押さえるなどご配慮下さい。

人との接触

医師やスタッフと握手などの直接的な接触を避けて下さい。
また、他の人から安全な距離（2メートル）を保って下さい。

外来患者の付添人の人数を制限

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、院内感染防止のため、外来患者の付添者の人数を制限しています。医療機関によって規制が異なる場合がありますので、かかりつけの病院に前もって相談して下さい。

- 外来患者の付添者は、1名までとしている病院がほとんどです
- 付添者の診察室への入室は、原則として禁止されています。
- 外来患者が単独での移動や医療スタッフとの意思疎通が困難な場合など、特別な事情がある場合は、医療スタッフにご相談下さい。

待合室や院内喫茶・売店

感染予防のため、来院の際にはソーシャルディスタンス（社会的距離）を取って待合室等をご利用いただくようご協力をお願いします。待合エリアの椅子に座る際は間隔を空けてお座り下さい。

入院患者について

新型コロナウイルス感染症患者在院の場合は、感染防止策を徹底し、他の患者とは動線や病棟を分離しています。

感染予防のために現在多くの病院が入院患者への面会を禁止しています。特別な事情で面会を希望される場合は、担当医、病棟へ事前にご相談下さい。

ご自身の治療に関する意思表示

自分自身が決断できないほど重症になったときのために、ご自身の治療に関する希望を記しておくことは重要です。家族や医療スタッフがあなたにとって重要なことや希望を知ることができます。

面会者数を制限したり、面会を禁止したりする病院や診療所もあるため、ご自身の治療に関する希望を記しておくことは今まで以上に重要です。以下に重要な項目をいくつか紹介しますので、身内の方と一緒に話し合ってください。

- どの程度の生活の質までは許容できるか？
- 状態が悪化したとき、一番大切にしたいことは何か？
- 会話ができなくなったとき、代わりに話してもらいたい人は誰か？
- 治療に関する決定に参加して欲しくないのは誰か？
- 心肺停止した場合、心肺蘇生を希望するか？

新型コロナウイルス感染流行中の輸血と献血**輸血によって新型コロナウイルスに感染する可能性はありますか？**

新型コロナウイルスが輸血によって伝染するという事例は現在ありません。しかし、発熱や咳、呼吸困難などの呼吸器症状等のある方や、新型コロナウイルス感染症（または感染

疑い) と診断された方には献血を遠慮いただいています。

献血した血液は「新型コロナウイルス」の検査をするのですか？

現在、献血血液について新型コロナウイルスを検査するシステムはまだ開発されておらず、その検査は行っておりません。

献血する事によって新型コロナウイルスに感染する可能性はありますか？

献血は安全です。衛生管理は万全で、血液バッグや採血針、チューブなどは一人ずつ新しいものを使用しますので、献血の際に感染する心配はありません。

新型コロナウイルス感染症のさらに詳しい情報については、以下を参照して下さい。

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/COVID19_specialpage

<http://www.cancerit.jp/65064.html>

<https://jastro-covid19.net/>

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2014-02-25-06-29-18/2111-blood/3193-blood-2013-1.html>

<https://oncology.jp/posts/17208>

<https://www.jcancer.jp/coronavirus>